

令和7年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立春里中学校) 学校番号233

【様式】

学 校 教 育 目 標	自ら学ぶ生徒	思いやりのある生徒	健やかな生徒
目 指 す 学 校 像	○学ぶことの大切さ・喜びを味わえる学校 ○あいさつを大切にする学校	○豊かな心、健やかな体を育成する学校 ○地域とともにある学校	
重 点 目 標	1 生徒一人ひとりが、自分に合った教材や学習方法、学習時間を判断し、自らの学習計画を立て、自己調整することにより、学びを深める。 2 校内教育支援センター「Sola(ソラ)る一む」の充実を図る等、誰一人取り残さない多様な学びを支える環境づくりを目指す。 3 令和6年度に新設したボランティア団体「春里中学校お助け隊」について、学校運営協議会を通じて計画的・組織的に円滑な運営を行い、年間を通じて活発に運用する。 4 教職員が連携することにより、生徒が安全・安心に過ごせる環境整備を図る。 5 教職員一人ひとりの指導力向上に資する校内研修を実施する。		

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価
年 度 目 標							実施日令和8年2月24日	
年 度 評 価							学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
学びの質の向上に関する取組	1<現状> ○「年間授業日数 205 日以上」の規定が撤廃され、学びの質の向上が求められている。 ○生徒の基礎・基本の充実と、「学びの指標」に基づいた授業改善が進められている。 <課題> ○各教科の知識の定着度や理解度の底上げを図るとともに、基礎・基本の確実な定着を図り、学びに向かう力を高める必要がある。 ○令和7年度、本校で新たに取り組む「さいたまエンジン」とおして、進路・キャリア教育の充実を図らなければならない。	○基礎学力向上 ○学びのポイント「じ・し・ゃ・く」で学習の質的向上を目指す	○平素の授業や家庭学習で、タブレット等を活用してスタディサプリやドリルパーク等に取り組む。 ○学びの指標を意識した授業を展開し、個別最適な学び、協働的な学びの一体的な充実を図る。	○学びの指標の「先生が、基本的な内容をわかりやすくしていねいに教えてくれる」の平均が前期よりも 3%以上上昇(R6 も 3%上昇)	○スクールダッシュボードを活用し、個に応じた指導とともに、指導方法を改善させた。学びの指標の「先生が、基本的な内容をわかりやすくしていねいに教えてくれる」の平均が前期3.48、後期3.55と2%上昇した。	B	○分かる授業を目指し、指導方法の工夫・改善に取り組み、基礎学力の向上と、真の学力の定着に努め、生徒一人ひとりが満足できる、授業展開を行う。	
		○進路・キャリア教育における探究的な問題解決型学習の充実	○市教委の指導のもと、2年生で「さいたまエンジン」に取り組み、探究的な問題解決型学習を実践する。また、12年間を見通した進路・キャリア教育を行う。	○学校評価保護者アンケート「お子様は、職業や自分の将来についての学習に取り組んでいますか？」の肯定的な評価が 40%以上(R6 は 36.5%)	○2年生で、さいたまエンジンを実施し、キャリア教育を充実させた。学校評価の保護者アンケート「お子様は、職業や自分の将来についての学習に取り組んでいますか？」の肯定的な評価が 38.9%であった。	B	○3年間で系統的なキャリア教育を実施し、生徒一人ひとりの将来の進路実現に向けて取り組んでいく。 ○令和8年度の2年生は、従来の未来(みら)くるワークを実施し、キャリア教育を充実させる。	
心の子どもの発達やサポートに関する取組	2<現状> ○生徒指導主任・教育相談主任・特別支援教育主任を中心に、さわやか相談室の利用等について、計画的で系統的な運営方針を教職員に周知して教育相談に取り組んでいる。 <課題> ○年間15日以上欠席生徒が15.9%(R6)である。 ○形式的で画一化された指導ではなく、個別的且つそれぞれの特性や環境に応じた柔軟で包括的な支援の実現が求められる。	○Sola(ソラ)る一むの充実	○教諭・さわ相・養護教諭・SC・SSW・SA等が生徒の情報を共有し、生徒理解に向け連携・協働する。 ○2軸3類4層構造の生徒指導を実践する体制を強固にする。	○一元的な情報の管理と、積極的な情報共有に基づいた機動性の高い協働的な組織によりSola(ソラ)る一むを運営できたか。	○Sola(ソラ)る一むを4室増やし、SA等の配置やオンライン授業を活用し、個々の生徒の状況に応じた、指導・学習を行った。	B	○Sola(ソラ)る一むの運営において、空き時間の教員やSAを配置し、より充実させることにより、個別最適な学びの充実につなげていく。	
		○個別的・包括的な生徒理解と支援の実現と計画的な教育相談活動	○教職員の教育相談活動に関する知識・技術の向上のため、外部から専門性を有する講師を招き研修等を行う。 ○生徒の自己実現や援助希求能力の育成のため、他職種等と連携し道徳やいのちの支え合いの授業を実施する。	○教職員一人ひとりの教育相談に関する知識・技術の習得と向上を目的とした校内研修が実施できたか。	○教職員研修を行い、教職員・さわやか相談員・SC・SSW・SA等が連携し、生徒指導・教育相談・特別支援教育の充実を行った。それにより、教職員の学校評価において、生徒指導・教育相談体制について、最もよい肯定的な意見を向上することができた。(R6:43%→R7:57%)	B	○個々の生徒の状況に応じた、相談体制を充実させ、長期欠席の減少を図りたい。 ○より一層、教職員研修を充実させ、教職員の生徒指導能力を向上させる。	
地域とともにある学校づくりに関する取組	3<現状> ○With コロナへの転換により、地域の様々な行事が更に拡大実施される見込みである。 ○令和6年度に、地域と学校の連携を深める新たな取組と制度として、「春里中学校お助け隊」を創設した。 <課題> ○全国学力・学習状況調査において、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合(75.8%)が、全国平均(76.1%)を下回っている。	○生徒や教職員による地元での行事等への積極的な参加	○地域の自治会等と連携を図り、地域で行われるさまざまな催し物について、生徒や教職員が積極的に参加できるよう、計画を立てて実施する。	○「ふらばーるバレー」や「ふれあいフェスティバル」等の地域主催の行事に、教職員や生徒が参加できたか。	○地域の方を講師とし、3年生を対象に、「ふらばーるバレー」講習会を実施することができた。また、春岡及び七里地区の地域主催の行事に、生徒・教職員が参加し、学校の取組を活性化させることができた。	B	○避難所開設訓練や自治会など、中学生が地域で活躍できる場をより一層増やしてほしい。	
		○「春里中学校お助け隊」の運営と運用	○学校運営協議会で、「春里中学校お助け隊」の計画的・組織的に円滑な運営に向けた課題を精査する。	○「春里中学校お助け隊」について、計画的・組織的に円滑な運営を行い、年間を通じて活発に運用できたか。	○今年度はチャレンジスクールにおいて、「春里中学校お助け隊」に御協力をいただくことができた。	B	○来年度は、部活動の地域移行に向けて、学校運営協議会で熟議を行い、計画的に「春里中学校お助け隊」に御協力をいただく。	
教育環境の整備に関する取組	4<現状> ○南北それぞれの校舎は、竣工して今年度で40年以上が経過し、老朽化が見られる。 ○令和6年度に初めて全校で「不審者対応訓練」を実施した。 <課題> ○「不審者対応訓練」の更なる充実を図るため、ロールプレイングの手法を取り入れ、実践力を高める。	○学校行事に保護者が参加する機会の増加	○本校で実施される学校行事に多くの保護者が参観・参加できるよう、各行事の計画を立てて実施する。	○土曜授業や学校行事(体育祭や合唱コンクール等)に保護者が参観・参加する機会を設けることができたか。	○学校公開・土曜授業及び学校行事において、多くの保護者の方に学校を見ていただくことができた。保護者の来校回数7回以上(R6:12.6%→R7:13.7%)	B	○保護者や地域の方に、来校していただく場面を多く作り、春里中の取組を理解していただき、地域に根差した学校づくりの一助としていきたい。	
		○教職員の連携による学校の安全管理の充実	○事務職員を通じて、毎月の安全点検であがった宮簾要望の中から安全面を重視して優先順位をつけ、学校配当予算を計画的に執行する。 ○8月に備品点検を実施し、不要物や粗大ごみを適正に廃棄するとともに、用務員や業務と協働して、校内の整理整頓を実施する。	○学校評価保護者アンケート「お子様は、防犯、防災、交通安全など、安全についての意識をもつことができますか？」の肯定的な評価が 95%以上(R6 は 92.2%)	○破損箇所の修繕は、速やかに行うことができた。学校評価の保護者アンケート「お子様は、防犯、防災、交通安全など、安全についての意識をもつことができますか？」の肯定的な評価が 88.9%であった。	B	○生徒が安心して生活できるように、教育環境の整備をより一層進めていく ○ハード面だけではなく、ソフト面も充実させ、学びやすい学校づくりを行っていく。	
教職員のキャリア形成に関する取組	5<現状> ○タブレット等を用いた効果的な授業の在り方について校内研修を重ねてきたことで、ICTを活用する教員が増えるなど、ICTスキル向上が見られる。 ○スクールダッシュボードの利活用を要とした「学び方改革」が示されている。 <課題> ○学校教育において、ICTを活用した学びを通して、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることが求められている。 ○若手の教職員の人材育成と職場環境の向上が求められる。	○ICT教育に係る授業改善	○教育研究所の希望研修や他校の授業研究会、スタディサプリやミライシードのオンライン研修会等に参加して、授業力の向上を図る。 ○エバンジェリスト等による「春里PCカフェ」やICT(Canvaやスタサブ等)を活用した研修等を実施して、授業力向上を図る。	○80%以上の教職員が、ICTを活用した授業改善に関する研修を受講して、ICTを活用した新たな指導方法等で授業を実践したか。	○全教職員が研修を受講し、ICTを活用した新たな指導方法等で授業の実践を行っている。 また、おはようメーター及びスクールダッシュボードを活用し、生徒の状況把握及び授業の理解状況を把握し、生徒指導対応及び、指導方法の改善に活かしている。	A	○生徒のタブレットの変更に伴い、教職員の研修及び生徒への指導の徹底を行う。 ○新しいタブレットの活用を積極的に行い、生徒の学習理解の一助としている。	
		○若手教員の人材育成と職場環境の向上	○若手教員を対象に、市の教育行政施策等に関する学習会を実施する。 ○今年度転入した教職員が、職員会議終了後に輪番で「危機管理スピーチ」を実施する。	○「市教員等の勤務に関する意識調査」の「職場に自分の目標、ロールモデルとなる教職員はいますか？」の肯定的回答が 50%以上。(R6 は 45.73%)	○「市教員等の勤務に関する意識調査」の「職場に自分の目標、ロールモデルとなる教職員はいますか？」の肯定的回答が 48.28%であった。	B	○リーダーとなる教職員を育て、手本となる教職員の育成を行い、若手教職員の育成に繋げていく。	